

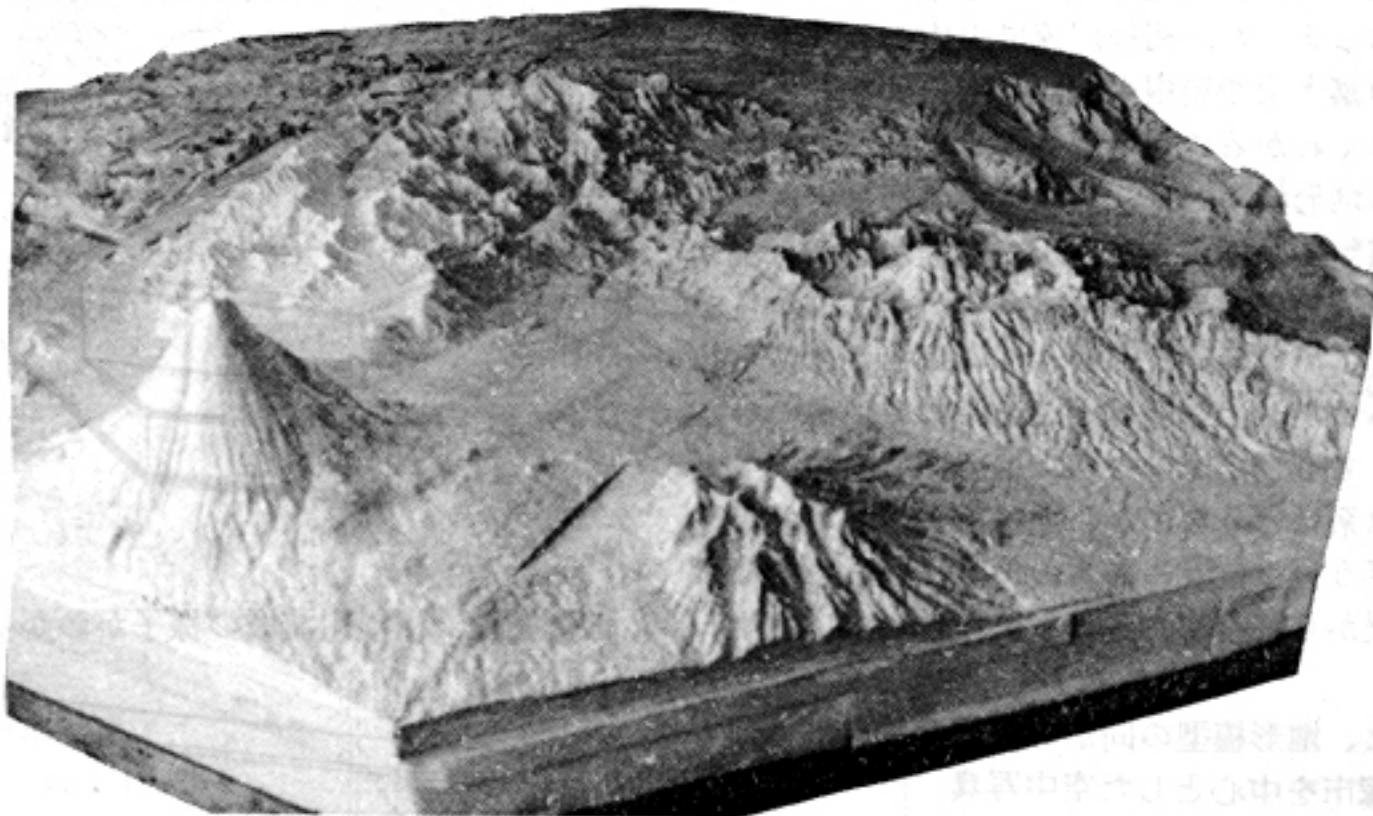


あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'92 2月号

展示はこうして作られる！「相模川と相模平野」の地形模型



博物館が休館となって1ヶ月が経ちました。この間に、展示替えの準備が着々と進んでいます。ここでは「相模川と相模平野」の地形模型の製作を例にして、展示がどのように作られていくのか紹介してみましょう。

まず、何を模型で表示するかを考え、構想を練ります。それにより模型の範囲を決め、縮尺をいくつにするか、高さを何倍に誇張するか、表示の仕方をどうするかなどを考えます。ここでは、縮尺25,000分の1で相模川流域の範囲とし、3m角の8角形としました。相模川流域の台地を表現するため、2.5倍に高さを誇張することにしました。この地形模型に相模川や酒匂川の水系、各市町村界、ダムや水道、寄生火山など、電気表示する位置を地図に書き込み、原図を作ります。

模型の原図ができてからは、展示業者に製作を委託します。スチレンペーパーという素材を用いて、地形図の等高線1本毎に切りとっています。地形図が50枚以上にわたり、等高線を10m間隔としたので、大変な労力です。1日ひとりで等高線が1cmも移動しないとのことでした。なんとか1月末までに等高線の切り抜き・積層がおわりました。上の写真はこの段階のもので、積層模型とは思えないなかなかの出来映えです。

このあと、この積層模型をFRP樹脂で型どりをし、その樹脂型に着色や電飾をおこないます。今後、電気表示に使うファイバーの間隔・模型の色・地名表示などのラベルの大きさや位置などを決定・製作し、地形模型として完成されます。

4月から新しくなる常設展示の紹介（第4回）

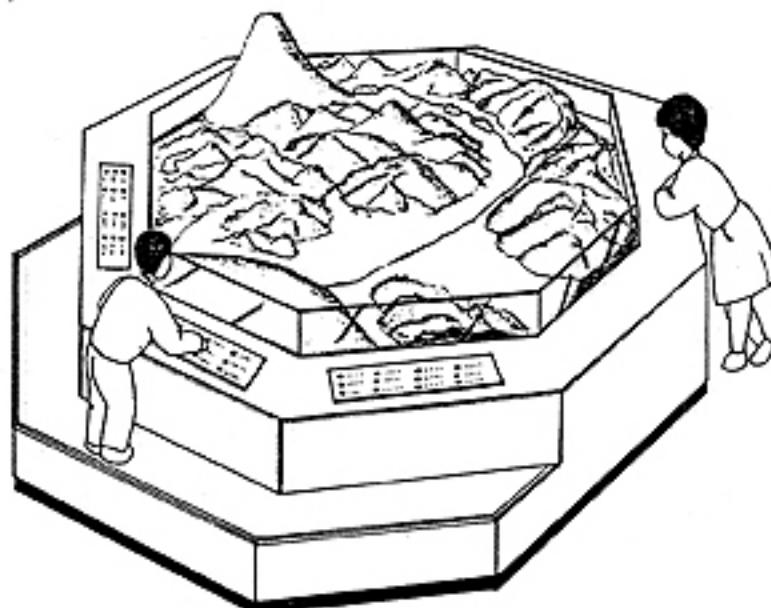
「あなたと博物館」11月号より、新しくなる展示の内容についてご紹介しています。今回は、1階常設展示「相模川と相模平野」と3階天文展示「星の広場」についてお話ししましょう。

6. 「相模川と相模平野」

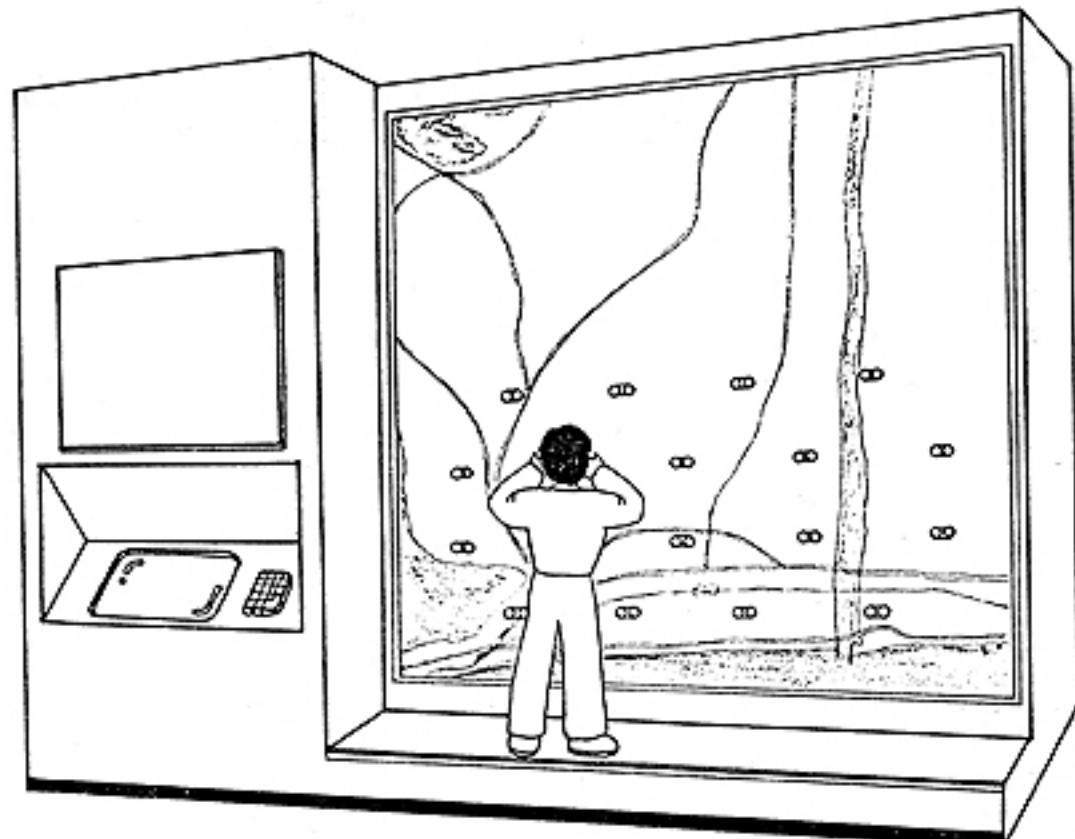
これまでの展示では、「母なる相模川」というコーナーで館の活動のフィールドを紹介していました。今度の新しい展示では、平面的だった地図を立体的な地形模型にしてご覧いただくことにしました。相模川流域の広がりや地形、周りの富士山や箱根火山、多摩丘陵などとの関係もよくわかることがあります。

この地形模型では、いくつかの押しボタンによる電気表示によって展示の内容がわかるようになっています。相模川水系の川がどこからどのように流れているのか、ダムはどこに作られているのか、上水道はどこを流れているのか。また、もうひとつの大きな川である酒匂川など他の水系はどうなのか、平塚市をはじめ各市町村はどういう位置にあるのか等、いろいろな事が模型から読み取れるように作られています。

また、地形模型の向かい側には平塚市を中心とした空中写真を展示壁面に貼付けます。8000分の1という縮尺ですから皆さんのが一軒一軒がわかるかもしれません。その写真に取付けられている窓（実体鏡）をのぞくとその地域が立体的に浮き上がって見えます。普段は平面的にしか見えない写真が、ちょうど空を飛んでいる鳥の目のようにになって見ることができます。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。よく見ると平坦なような平塚の平野も、起伏に富んでいることがわかるでしょう。



地形模型（相模川流域の様子がわかる）



実体視のコーナー（平塚市やその周辺を立体的に見ることができる）

※展示替えのための工事が3月まで行われます。新しい展示の公開は、4月からとなります。どうぞ、ご期待下さい。

7. 「星の広場」

「隕石（いんせき）」—宇宙の情報箱—

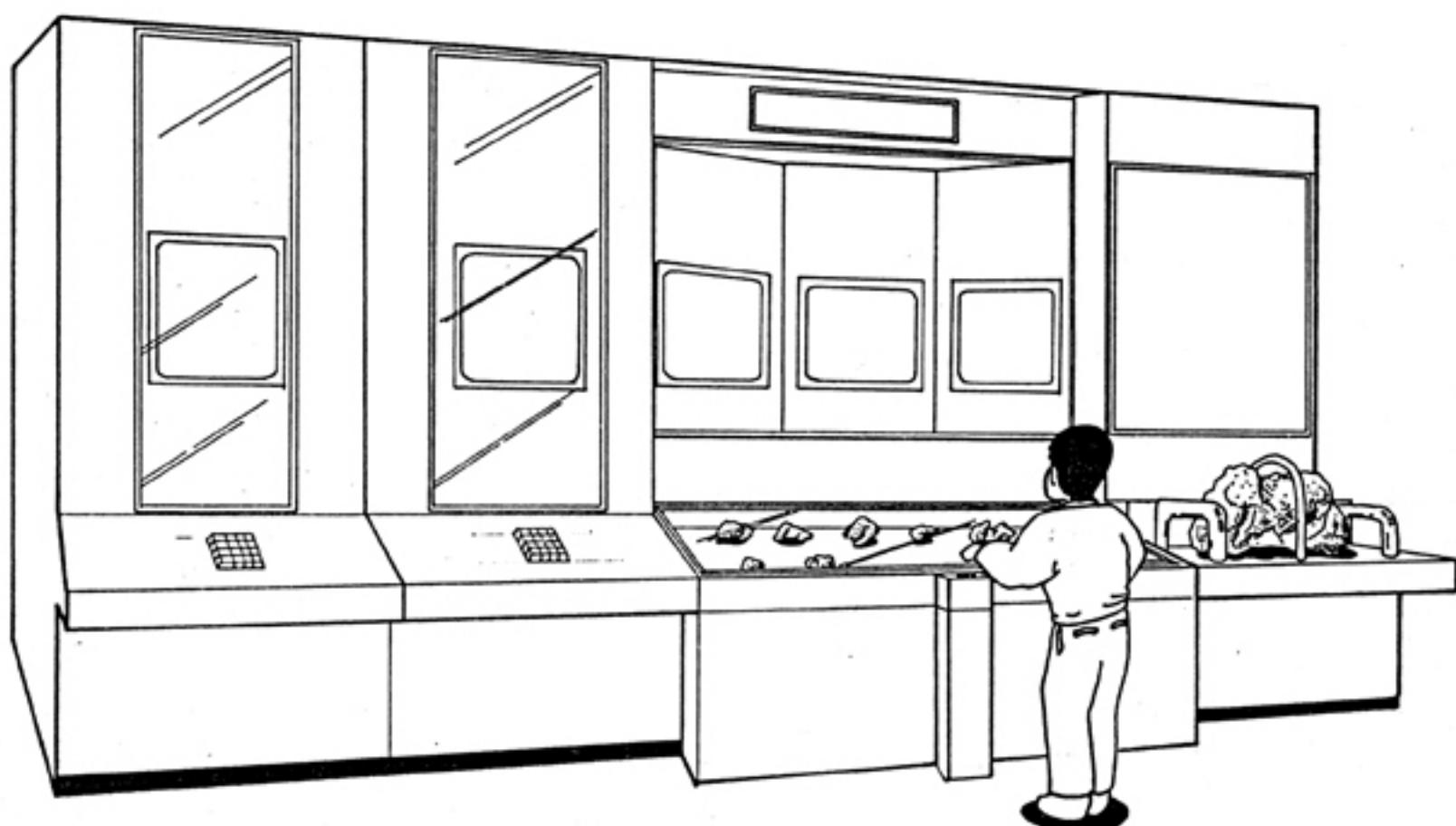
隕石は、ご存知の通り地球に落ちてきた小さな惑星です。小惑星と呼ばれるれっきとした太陽をまわる天体です。大きさは、直径数百Kmもあるものから小石くらいのものまで無数にあり、それらのうち地球の軌道と交わるか、ごく近くを通るような小惑星がぶつかってくるのです。幸いに地球には大気があり、飛び込んでくる惑星のほとんどは空気との摩擦で蒸発してしま

います。まれに地上まで落ちてきて見つかったものが隕石と呼ばれ、私たちの目に触れるわけです。展示では、世界中のあちこちで発見された隕石15点を展示します。中でも最も大きな「ギベオン隕鉄」は触れることができるようになりました。触って、よく見てください。また、ビデオとパソコンにより、隕石の事を詳しく説明できるような展示にもなっています。

「天文なんでもコーナー」

パソコンとレーザーディスクを組み合せた天文情報展示が二台になります。内容も今までの星座の解説、アストロクイズ、天文現象の案内、世界の天文台が撮影した天体写真に加えて、博物館が独自に収集してきた星座や星雲星団、太陽の黒点、月、惑星、ハレー彗星の写真や皆既日食のビデオ等を見ることができるようになります。この展示では、天文に関する情報をど

んどん増やしていくことができますから、いつの日か宇宙について知りたいな、と思うことを引き出すができるようにしたいと思っています。展示の前にすわってキーボードを押して、あなたが知りたい星座の事やいろいろな天文現象の情報を引きだし、星を見るときに役立てて下さい。



《行事案内》

2月の行事予定		
8	土	土曜観察会 天体観察会
9	日	漂着物を拾う会 (花水川河口午前8時~9時) 相模川の生き立ちを探る会 (真鶴)
16	日	石仏を調べる会
23	日	相模川を歩く会(厚木~寒川)
3月の行事予定		
1	日	漂着物を拾う会 (花水川河口午前8時~9時)
8	日	相模川の生き立ちを探る会
14	土	土曜観察会
29	日	相模川を歩く会 (寒川~茅ヶ崎)

※休館のお知らせ

- 1階の常設展示が新しくなります。そのため3月31日までは、展示替え工事期間となり、博物館は休館です。新しい展示は、4月から公開される予定です。



※今年度もあと2か月を残すだけとなりました。来年度の博物館行事については、「あなたと博物館(3月号)」や「広報ひらつか」に掲載する予定です。

博物館のシンボルマーク 何を表わしているのですか?

博物館は、開館以来もう少しで満16年になります。博物館の展示や行事については、市民の皆さんにもかなり理解されてきているようですが、館のマークの意味はご存知でしょうか。これは、木田元氏のデザインによるもので、館の活動のテーマである「相模川流域の自然と文化」を表現しています。分解してみるとわかると思いますが、以下のような形・意味から成り立っています。

